

Argentina

アルヘンティーナ

No. 72

Santa Rosa, La Pampa (在日アルゼンチン大使館ご提供)



一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2019年7月

理事長ご挨拶 (永井 慎也)	2	¡Hola, soy Mayo! (岸 麻裕子 (Mayo cordobesa))	7
アルゼンチン共和国選手団の事前キャンプ地誘致 (茨城県境町)	2	Resumen en castellano (Irene Gashu)	9
JETRO ブエノスアイレス便り (紀井 寿雄)	3	東京都オリンピック・パラリンピック国際交流プログラム への参加 (渡部 千秋)	10
過去と現在が共存しているブエノスアイレスでの生活 (野村 知宏)	5	総会・理事会報告	11



理事長ご挨拶

—令和、新しい時代を迎えて

永井 慎也

いよいよ新天皇も即位され、新しい時代が始まりました。我々も心機一転、今後を考える必要があります。その際、多くの良いこと、素晴らしいことが達成可能と思われませんが、同時に最悪の事態を予想しつつ、あらかじめその対応を考えておくことも重要であると思います。緊迫の度合いを強めつつある国際情勢への対応は、まさにそのような対象の一つであろうと思います。

その点で、多分、アルゼンチンとの良好な関係を維持し発展させることは、日本にとって安心材料の一つになると思います。当協会も、民間の団体ではありませんが、地味ではあるものの、結構、重要な役割を果たしうると確信しております。

昨年、2018年は、両国が国交を樹立してから120周年の節目となりました。当協会も、これを記念していくつかのイベントを主催し、また、アルゼンチン大使館など主催の記念行事にも参加いたしました。これらの協会の120周年記念事業を遂行するに当たり、皆様方には多大なご支援を頂きました。心より御礼申し上げます。

これからについてですが、今後も民間団体の強みを生かし、お役に立てて、かつ、楽しく実行できるようなプロジェクトを推進したいと考えております。例えば、2019年は、ラグビー世界選手権大会が日本で開催されます。アルゼンチンは、サッカーで有名ですが、ラグビーの強豪国でもあります（NZ、豪、南アなどのトップグループの次か、あるいはこれに食い込める位の位置にいると思います）。現在、このラグビー世界選手権大会開催に際し、協会として何らかの協力ができないか可能性を探っているところであります。さらに、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。すでにホストタウン誘致などアルゼンチンとの協力体制ができつつある種目もあるようですが、当協会としても、できる限りの協力を行いたいと考えております。

会員の皆様には、これまでのご協力に心より感謝申し上げます。今後とも、アルゼンチンとの親善のためにご支援を賜りたいと存じます。

（ながい しんや：当協会理事長・元アルゼンチン大使）

アルゼンチン共和国選手団の 事前キャンプ地誘致

茨城県境町

境町とアルゼンチン共和国との交流の始まりは、1853年ペリー来航時まで遡ります。当時、随行者のアルゼンチン人と東京湾警備に派遣された関宿藩士に交流があったとされ、1933年に関宿藩士の子孫の野本作兵衛氏が随行者の子孫であるモンテネグロ在日代理公使に家宝の刀を贈り、子孫同士の親交が始まりました。その後、作兵衛氏の地元の長田小学校にモンテネグロ氏が訪問したことをきっかけに、平成元年からは、毎年10月に同小において「アルゼンチンの日の集い」を

開催。平成28年からは、境町の小学生がアルゼンチンを訪問しホームステイをするなど、さらなる交流を深めています。

このようにアルゼンチン共和国と長い交流の歴史を持つことから、平成28年6月に東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンに登録され、さらに昨年4月には境町にて事前キャンプ実施に向け、互いに協力する旨の覚書をアルゼンチンオリンピック委員会と締結しました。

また、昨年10月には橋本町長がアルゼンチン共和国を訪問し、ユースオリンピック・ブエノスアイレス2018を視察したほか、アルゼンチンオリンピック委員会とホッケー場やテニスコートの施設整備について協議を行ってきました。



長田小学校アルゼンチンの日の集い



亜国五輪委Eduardo Moyano氏と橋本境町町長



ブエノスアイレスでの五輪委員会との協議後

アルゼンチン共和国は、リオデジャネイロ大会2016で金メダルを獲得したホッケー強豪国ですが、アルゼンチンオリンピック委員会より強い要望があったホッケー場の整備について、オリンピック基準に対応したウオーターベース人工芝のホッケー場を境古河インターチェンジ周辺地区内に整備する計画です。また、オリンピック仕様のテニスコート4面を整備し、そのうち2面は屋根を設置することで、雨天時の使用や真夏の直射日光を軽減できるような施設にする予定となっています。そのほか、柔道場やフェンシング施設など、事前キャンプ実施に必要なオリンピック基準に沿った施設整備とともに、選手団の受入体制の充実も図ってまいります。

茨城県境町ご紹介：幕末より日亜友好に関わる人物を輩出し、現在も毎年アルゼンチンへ児童派遣し、タンゴショー開催など活発に友好親善に尽力されている自治体です。詳しくは当協会ホームページ「アルゼンチンとの友好事始め」をご覧ください。



JETRO ブエノスアイレス便り

紀井 寿雄

2018年7月の会報（第71号）にブエノスアイレス便りを書いてから1年が経ちました。当時書いたものを読み返しましたが、何だか遠い昔のように思われるくらい、その後の動きは波瀾万丈だったように思います。

今年のアルゼンチンにとっての一大イベントは、10月に行われる大統領選挙でしょう。読者の皆様のご関心の一つは、果たしてどの候補者が勝つのかだと思います。ただし、政治の世界では一寸先は闇で

あり、選挙は水物と言われるなかで、6月22日の大統領候補者リスト締切日を前に、各政党の大統領候補者を確定することも儘なりません。ここでは、大統領選に向けた幾つかのポイントを整理したいと思います。



<政権に対する厳しい評価>

まず、マクリ政権の評価を見ていきます。現地世論調査会社のダレッシオ社によると、政権への評価(2019年4月)は「良い」が24%で、「悪い」が74%と低空飛行を続けています。「良い」と「悪い」は2016年以降拮抗していましたが、中間選挙が行われた2017年10月の56%をピークに、その後下降線を辿っています。政権の評価は景気の動向と相関関係が見られています。2018年第4四半期以降、マクリ政権を「良い」と評価する比率は3割を超えることはありません。

次に、野党の情勢です。20世紀後半以降のアルゼンチン政治に隠然たる影響力を与える野党「ペロン党」は、今回の選挙で捲土重来を期するところですが、現時点では急進派と穏健派に分裂しています。急進派の象徴的存在なのはクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル元大統領(CFK)で、穏健派内では多数の候補が乱立しています。CFKは3割の岩盤ともいえる支持勢力はあるなか、6~7割近くからはマイナスの評価をされるなど毀誉褒貶の激しい政治家です。マクリ大統領が率いる連立与党カンビエモスは、今回の選挙に向けてCFKの政治的プレゼンスを残すことで、ペロン党の分裂を継続させることを戦略としていたと言われていました。

<抜け出せない景気低迷とマクリ大統領の人気低迷>

ところが、与野党を取り巻く環境が2018年以降から少しずつ変容してきました。一つは2018年を通じた景気の波が深く、回復までに時間が掛かっていることです。政府としては、2018年中には景気の底を打って、2019年上半年以降は景気が回復していることを描いていたと思われます。しかし、高金利政策の下で、工業や商業セクターの疲弊ぶりは深刻となっており、回復は実現していません。

もう一つは、この不況によってマクリ大統領の人気が下がっていることです。調査会社ダレッシオ社によれば、政治家に対する評価(2019年4月)で、マクリ大統領のマイナス評価が62%、CFKのマイナス評価が58%となり、2016年9月の調査開始以降初めてマイナス評価でマクリ大統領がCFKを上回りました。これまでの連立与党の見立てでは、もしアルゼンチン経済の調子が悪くても、CFKと比べたらマクリ大統領は相対的にまだ人気があるということだったのでしょうが、それが通用しなくなったことが世論調査では確認されました。つまり「誰でもいいけど、CFKだけは嫌」と

いう有権者よりも、「誰でもいいけど、マクリ大統領だけは嫌」という有権者が増えているということになります。これは連立与党にとっては計算外で、痛手だと思われます。

<“It's the economy, stupid”

(「経済こそが重要なのだ、愚か者」)>

先ほどのダレッシオ社の世論調査でも確認できますが、政権への評価と景況感には相関関係があります。景気が良いと「感じる」とときには政権への評価も高いです。そのことはマクリ大統領の選挙参謀も認識しています。マクリ大統領の再選シナリオには経済回復の道筋をつけることが不可欠になっていました。

マクリ大統領にとって、どこまで経済要因が大事なのかを見てみましょう。4月下旬に現地調査会社FGAが行った世論調査によると、8月11日に行われる予備選挙で誰に投票するかという質問を行った際、マクリ大統領が25.0%、CFKが30.3%となり、CFKが5.3%の差をつけました。ちなみに、「もし投票当日までに経済が『悪化』していたら」という条件を付けたところ、その差は10.0%に拡がりました(31.5%対21.5%)。一方、「もし投票当日までに経済が『改善』していたら」という条件を付けたところ、マクリ大統領が逆転する結果となりました(30.5%対29.7%)。

この世論調査で裏付けられていることは、マクリ大統領は経済の浮沈に左右されやすいということです。経済の行方によって、支持率が最大9.0%変化します。一方のCFKはその変化が1.8%にとどまります。つまり、常に3割近くの固定票が見込めるCFKは、浮動票に受け入れられやすいイメージ戦略に注力すれば良いわけです。また、そのイメージ戦略の一つが中道票の取り込みであり、アルベルト・フェルナンデス元首相を大統領候補に担ぎ上げるサプライズに繋がったとも考えられます。

「経済こそが重要なのだ、愚か者」というフレーズは1992年の米国大統領選で選挙戦序盤に後塵を拝していたクリントン陣営が使ったフレーズです。冷戦の終結を成し遂げたブッシュ大統領に対して足下の自国経済を見ていないことを揶揄する内容を帯びていました。マクリ大統領の選挙参謀は2019年の経済回復を念頭に再選戦略を描いていたのかもしれませんが、経済立て直しを達成することができないなか、現状では経済が重要だと声高に訴えるのは皮肉にも野党勢力となっています。

経済回復への道筋が厳しい中で、連立与党がこれから数ヶ月かけて取り組むのは、「実績のPR」と「静けさの継続」かと思われます。「実績のPR」ですが、ここ数週間で数々のインフラ・プロジェクトが完了しており、連日そのPRが行われています。市民生活の改善に繋がることを<言葉>ではなく<かたち>にしたということをどこまで有権者に伝えられるかがカギだと思われます。また「静けさの継続」は為替とインフレの安定化を指します。有権者の心配事は自らの懐具合であり、為替とインフレの行方に対して常に目を光らせています。これを政権の判断ミスといった国内要因から騒ぎを起こさないことが求められます。

与野党にとっては次の4年間を決める真剣勝負。アルゼンチンの行方を占う上でも大事な選挙になります。それでは最後にもう一度、政治の世界で一寸先は闇であり、選挙は水物ということを書きとめて、筆を擱きたいと思います。

(2019年6月4日 記)



6月3日に延伸したブエノスアイレス地下鉄E線の「中央郵便局」駅

※本稿はあくまで執筆者個人の考えを述べたもので、JETROの見解を示すものではありません。

(きい としお:JETROブエノスアイレス事務所 所長)



過去と現在が共存しているブエノスアイレスでの生活

野村 知宏

アルゼンチンの朝の挨拶は「Buen día (ブエン・ディア)」で始まります。スペイン語に素養がある方はBuenos díasの誤りではないの?と疑問を持たれるかもしれませんが、アルゼンチン語ではこれが標準です。Gracias (ありがとう) への返答もDe nada (どういたしまして) では無くここではPor favorになります。今年2019年の大統領選挙を控えて、アルゼンチンは日本での報道も増えてきていると思いますが、政治経済の構造のみでは無く、言語の面でも特異性の高い国なのです。

そういうアルゼンチンの首都ブエノスアイレスにあるボカ地区の入り口に現在のアルゼンチンNEC (NEC Argentina S.A. - NECAR) の事務所があります。ボカ地区はサッカーチームのボカ・ジュニアのホーム球場がある場所です。ボカ地区には色鮮やかな建造物で有名なカミニート観光地もあり、その影響もあってか、NECAR事務所ビルやその周辺の建物の外壁は色々な

絵画が描かれています。ボカ地区は年代物の建物が多いのですが、その中でビルに描かれている絵画が何とも言えない独特の雰囲気醸し出しています。



NEC Argentina 周辺

NECARは昨年2018年に創立40周年を迎えました。設立当時は現地パートナーとの合弁企業、その後、

1997年にNECグループ100%企業になりました。設立当時は製造業として通信機器の現地生産をしていましたが、技術革新に伴い世界中で情報通信産業界の環境が大きく変化した為、NECARは2000年代初期から独自にITシステムの構築やソフトウェア開発に着手しました。その結果、現在では、アルゼンチンから他の中南米諸国に対してソフトウェアやソリューションを輸出する力を備えています。

現在のNECARのアルゼンチン国内での事業活動としては、国家の移民局向けに指紋・顔認証による出入国管理システム、地方公共団体への映像監視システム、通信事業者向けインフラ構築およびソリューション提供等があります。最近、成田空港でも出入国審査場にて顔認証自動化ゲートが稼働しましたが、アルゼンチンでもそれと同様の技術方式を活用した出入国審査および自動化ゲートが既に運用されているということです。但し、アルゼンチンの自動化ゲートの利用は未だ18歳以上のアルゼンチン人に限定されている為、残念ながら外国人である日本人は使えません。

日本でも漸く最近導入された顔認証による出入国管理システムがアルゼンチンで稼働しているという話をすると、アルゼンチンの生活環境はそれなりに良いという想像をさせるかもしれませんが、当国の政治・経済状況は日本とは大きく異なります。

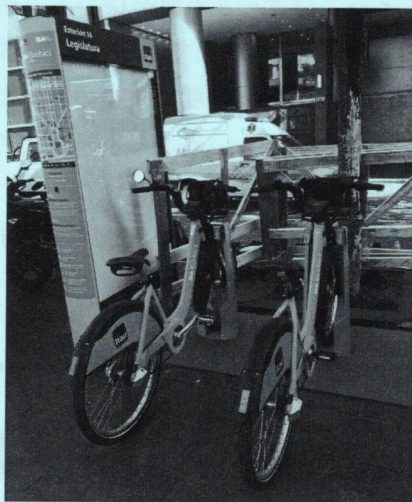
昨年、2018年は為替下落率が100%近く、インフレ率は50%程度、政策金利が60%以上と日本では想像し難い環境にありました。今年に入ってから、為替下落は緩やかになってはいるものの下落率は30-40%、インフレ率は40%と夫々予想されています。という話をすると、国民生活はさぞ悲惨なのだろうと想像される方が多いのですが、実態はそれとは異なり、ブエノスアイレスの高級ステーキハウスは常に料理とワインと人で溢れています。又、仕事がなくて生活が苦しいという声が聞こえてきている一方、平日の午前中から街中の公園でランニングやマテ茶を楽しんでいる人を多く見かけます。

日本では常識で理解できることが、こちらでは日本の常識では理解し難いことが多々あるので、その内の幾つかをご紹介します。

例えば、ブエノスアイレスでは道路が僅か数人のデモ参加者で封鎖され道が大渋滞になっているのに、警察が同デモ隊を強制退去させることができません。デモを実施すること並びに公道を通行することは共に万人にとって同等の権利ですが、アルゼンチンでは公道

を通行する権利がデモをする権利より低いと位置づけられている様で、道路封鎖が至る所で日常茶飯事に発生しているのです。これは政府が過去に国民に対して人権侵害をしたので、その反動として警察がデモ隊を実力行使で撤去出来ないという状況になっているとのことです。

前述の状況だとアルゼンチンは昔から余り変わっていないなあと感じられる方も多いと思いますが、日常生活へのIT機器やソフトウェア浸透が深まり、随分と生活が快適になったこともあります。乗り物の道案内やタクシーのアプリケーション、スーパーの自動レジ、食事の宅配便、レンタル自転車等です。



レンタル自転車：自転車レーンも整備

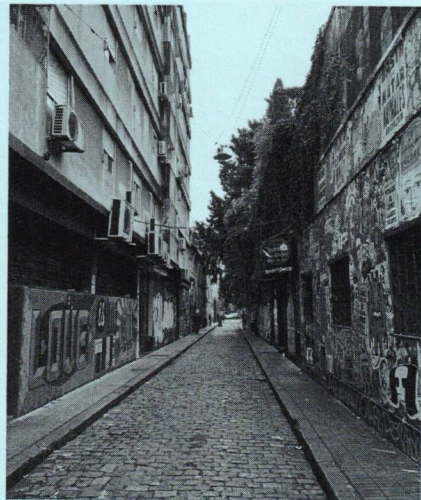
例えば、路線バスのアプリケーション（注）を携帯電話に設定しておく、バスの路線を全く知らなくても、目的地に到達することができるのです。アプリケーションが出る前は、文字が小さくて非常に使い勝手の悪い路線地図に頼るしかなかったので、まるで夢の様です。一方、バスの運賃の方は従来通り政府補助金があるので初乗り50円程度とお得感で一杯です。私は休日の天気の良い日など、バスの始発から終点まで乗って、人々の生活の様子やブエノスアイレスの街並みを観察して楽しんでいます。

（注：<https://www.omnilineas.com.ar/buenos-aires/colectivos/>）

スーパーの自動レジも快適でこれまでには考えられなかったサービスで最高の気分です。一般レジの長蛇の列を横目で見ながら、ゆったりと楽しい気分です。自分でバーコードをリーダー端末で読み取り、迅速に会計が出来るのです。自動レジが空いている理由は、カード払いが原則であることと、合計購入品目数に制限があるので、買い物かご（チャングート）一杯に買い物する人は使えないからです。



スーパーの自動レジ



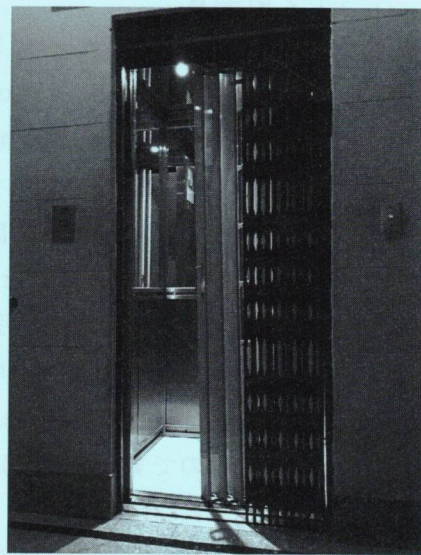
石畳

さて、昔ながらのアルゼンチン、進歩しているアルゼンチンにお付き合い頂きありがとうございました。

日本の都会では、古いものは時間の経過とともに消滅してしましますが、ここブエノスアイレスでは古いものと新しいものが常に同居しています。築100年を超える建物、マイクロセントロの石畳の道、扉を手動で開閉させるエレベーター等、日本の都会ではすっかり姿を消しているものがブエノスアイレスには未だ堂々とその機能を果たしています。更に、ブエノスアイレスには緑で一杯の公園が多く、ブエノスアイレス市の中心街から近いプエルトマデロには環境保護地区もあって自然とも見事に融合しています。その一方、携帯電話ひとつで色々なサービスを利用できるという環境も整っているのです。私はそういうブエノスアイレスが大好きです。

「※ 本稿はあくまで執筆者個人の考えを述べたものです。」

(のむら ともひろ：NEC Argentina CEO)



手動エレベーター

筆者紹介：野村知宏、ブエノスアイレス在住歴7年半。統制経済だったクリスティーナ前大統領時代と開放経済政策に舵を切ったマクリ現大統領の両時代にかけてアルゼンチンにて生活。日アルゼンチン両国間の「通訳」として両国ビジネス活動に挑戦中。

¡Hola, soy Mayo!

皆さま、こんにちは。岸 麻裕子(きし まゆこ)と申します。ご縁があって会報電子版で「Mi tercer sitio, Argentina」という記事を担当させていただき、これまで5回に亘ってアルゼンチン・コルドバでのホームステイや児童養護施設でのボランティア活動を通じて経験したことをご紹介して参りました。お陰様で皆さまには温かいお言葉やご感想をいただき、毎回、とても楽しく執筆しております。¡Muchísimas gracias!

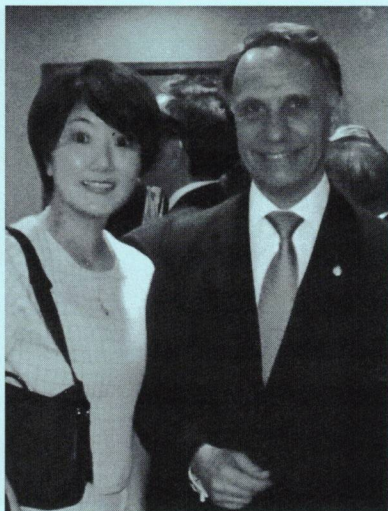
岸 麻裕子 (Mayo cordobesa)

私の正体は明かさない方が夢があるかも知れませんが、「どんな人が書いているの?」というお声もあるようですので、今回は私のことを少し知っていただく機会にしました。どうぞお付き合いくださいませ。

☆ Soy Mayo, 私はマシヨです

私の名前(マユコ)は、スペイン語を母語とする方々には発音が難しいようで、「マヨコさん」と言われ

ることがほとんど、もしくは「マジュコさん」と言われます。何だか、自分の名前が呼ばれているようには感じられません。そこで、スペイン語圏の方々が発音しやすいニックネームが欲しいなと思っていました。



Mayoとベロー大使

スペイン語学習

を始めたときはHola.とGracias.しか予備知識がありませんでしたが、「Hola, me llamo Mayuko. Vivo en Tokio. Mi cumpleaños es el 21 de mayo. (こんにちは、私はマユコです。東京に住んでいます。私の誕生日は5月21日です。)」という簡単な自己紹介を習ったときに、5月はmayoだということを知って(これだ!)と思いました。私の誕生月は5月、そしてMayukoの最初の3文字は英語で5月を意味します。さらに、Mayukoをギュッと縮めるとMayo、スペイン語の5月と同じ発音になるのです。何という偶然でしょう!(親にも感謝しなくてははいけませんね)

こうして私は、スペイン語を使うときはMayukoではなくMayoになりました。初対面の方に「私の名前はMayukoですが、Mayoと呼んでください。」と言うと、「5月? どうして?」と聞かれるのですが、説明すると必ず笑顔で「いいねえ!」と言われます。

余談ですが、アルゼンチンの発音で「マシヨ、マシヨ」と呼ばれることがすっかり当たり前になっているので、まれに、スペインのスペイン語を話す方から「マジヨ」と呼ばれると、漢字には変換したくないなあと思ってしまう(笑)。

☆度胸と行動力が持ち味です

独りで毎年アルゼンチンへ渡航したり、現地では長距離バスで移動したりと、友人だけではなく実の親兄弟さえも、「すごい度胸というか行動力というか・・・」と驚いています。私はなぜこうなってしまったのでしょうか?

私の両親は北海道の人ですが、父親が転勤族だったので私は札幌・青森・仙台で育ち、小中学校は転校もしています。そして大学は親元を離れ、大学院までの6

年間、周りは男子学生だらけの工学部で生物化学工学を専攻していました。もともと幼少期から発揮されていた男勝りな性格は、このときに熟成されたようです。

新卒で就職した会社の勤務地は縁もゆかりもない山口県でした。就職の最終面接では役員から「うちの会社の研究所は山口県にしかないけれど、あなたはずっと東日本で育ってきましたよね、大丈夫ですか?」と聞かれ、「人が住めるところならばどこでも構いません。」と答えて「頼もしいねえ。」と笑われた思い出があります。

その後、現在の会社へ転職し、大田区にある本社R&D部門で将来事業のタネになる研究業務にあたるようになりましたが、もっと製品に関わる仕事がしたいと思って2年前に社内公募で静岡県の実業所へ異動しました。毎日、富士山のお膝下へ新幹線通勤をしています。

子供の頃からの環境や経験が、「いろいろなことに興味を持って物怖じせずに行動を起こし、初めての場所でもすぐに馴染んでやっていける」という、今の私を作り上げたのだと思っています。

☆夢は、世界を・・・

面接で叱られるという珍しい経験もしたことがあります。

県立高校のすべり止めで受験した私立高校は、カトリック系の学校でした。その面接で「将来はどのような女性になりたいですか?」と聞かれた私は、寸分の迷いもなく、「世界を股にかけて活躍する大人になりたいです!」と力強く答えました。すると、「あなた・・・女の子が“股にかける”なんて言葉遣いをするものじゃありません!“世界を舞台にした”とおっしゃい!」と叱られてしまったのです。(ええ〜?股にかけるって言うよねえ?)と釈然としない思いを抱きながら、(これは落ちたな・・・県立のランクを下げなきゃいけないかな・・・)などと思っていたが無事に合格。結局、志望校にも合格したので、私立高受験は「面接で叱られる」という笑い話だけが残ったのですが、それからちょうど25年後。中学1年生から憧れていた南米・アルゼンチンでホームステイをしながらボランティア活動をすることができました。そして、毎年アルゼンチンへ里帰りしています。

そうです、「世界を股にかけたいです!」という夢を実現しているのです。

日垂協会の多くの会員の皆様のように私はアルゼンチンで大きな仕事をしたとか、偉業を成しているわけ

ではありません。しかし、Mayoという日本人を通して、アルゼンチンの友人たちは日本に興味を持ってきています。街では、「初めて日本人に会ったわあ！」と喜んで色々質問してくれたおばあちゃんもいます。また、日本ではこうして、アルゼンチンでの思い出や経験を皆さんと共有することができます。

せっかくアルゼンチンにご縁ができたのですから、単なる旅行好きでは終わりたい、もっとアルゼンチンのことを知って、素敵な文化を日本での生活に取り入れることはできないか・・・といつも考えています。その一環として今年2月、アルゼンチンタンゴの音楽やリズムを取り入れた「タンゴセラピー」という補助

療法を行なうための「タンゴセラピスト」の資格を取りました。毎月、老人ホームを慰問して、入居者の皆さんの温かい笑顔に私の方が元気をいただきながら活動しています。

私だから出来ることもきっと何かあると思うので、これからも自分の目や耳、心でアルゼンチンを感じていこうと思っています。そして、高校受験時の私のように夢は大きく・・・「アルゼンチンと日本の懸け橋になりたいです！」

Mayo

(きし まゆこ：当協会賛助会員)



南米大陸最南端・ウスアイアの国立公園にて

Resumen en castellano

por Irene Gashu

Saludos del Director General (p. 2)

Por Shinya Nagai

Ha comenzado la era Reiwa. Como entidad privada, seguiremos estimulando las relaciones amistosas entre Argentina y Japón. De alguna manera, apoyaremos a los argentinos que participarán en la Copa Mundial de Rugby y los Juegos Olímpicos y Paralímpicos de Tokio que se realizarán en Japón en 2019 y 2020, respectivamente. Agradecemos la colaboración de todos ustedes y esperamos seguir contando con su apoyo.

Canchas de entrenamiento para el equipo argentino (p. 2)

Por Sakai-machi

Las relaciones de amistad y colaboración entre Argentina y la ciudad de Sakai-machi, prefectura de Ibaraki, se remontan a 1853. Desde 1989, todos los años se celebra el “Día de Argentina” en la Escuela Primaria Nagata y desde 2016, chicos de la primaria visitan Argentina. Además, Sakai-machi será la ciudad anfitriona del equipo argentino en las Olimpíadas de Tokio 2020. Para que puedan entrenarse, Sakai-machi planea construir una serie de canchas (hockey, tenis y otros).

Desde JETRO Buenos Aires (p. 3)

Por Toshio Kii

El gran tema de este año son las elecciones presidenciales de octubre. En abril de 2019, la imagen negativa del Presidente Macri (62%) fue mayor que la de Cristina Fernández de Kirchner (58%). La mala situación económica ha hecho que caiga la popularidad de Macri. En el mundo de la política, sin embargo, nadie sabe lo que va a suceder en el futuro y en las elecciones influye mucho la suerte.

Buenos Aires: una ciudad donde el pasado convive con el presente (p. 5)

Por Tomohiro Nomura

Las oficinas de NEC Argentina se encuentran en el barrio de La Boca. Hay muchos edificios antiguos con murales modernos y coloridos. Con frecuencia hay protestas callejeras que bloquean la circulación pero

la policía no puede hacer nada. Hay cosas que no han cambiado: ascensores con apertura y cierre manual, calles adoquinadas y parques con mucho verde. Por otro lado, con una sola llamada del celular, se pueden obtener muchos servicios.

¡Hola, soy Mayo! (p. 7)

Por Mayuko Kishi (Mayo cordobesa)

Colaboro con la versión digital del Boletín de nuestra Asociación. Mi nombre es difícil de pronunciar en castellano. Mi cumpleaños es en el mes de mayo. Por eso, en Argentina me conocen como: “Mayo”. Todos los años voy a Argentina sola y me traslado en ómnibus de larga distancia. Dicen que tengo mucho coraje, muchas energías. Soy ingeniera bioquímica. Hace poco obtuve el título de tango terapeuta. ¡Quiero ser un puente entre Argentina y Japón!



東京都オリンピック・パラリンピック国際交流プログラムへの参加

渡部 千秋

東京都教育委員会は東京2020年大会を子供たちの人生にまたとない重要な機会と捉え、重点施策として、豊かな国際感覚を醸成し、世界の多様性を受け入れる力を育てるべく、都内全ての公立学校を対象に「国際交流プロジェクト」（世界ともだちプロジェクト）を立ち上げました。

この中には、海外の駐在経験者や大使館員の講師による各国紹介プログラムもあります。

こうした取り組みは、まさに当協会の意図するところで、しかも「アルゼンチンは中南米屈指のスポーツ大国であり、2019ラグビーワールドカップに続き、2020オリンピック・パラリンピックではお家芸のサッカーにホッケー・テニス等多くの種目で活躍が期待され注目度も高く、地理的に遠い国だが、音楽交流や日系移民の活躍などで親近感あるアルゼンチンの実像と日亜両国関係を学び、民族多様性を理解し、豊かな国

際感覚を養う契機に資する。」というプログラムの狙いを示して、参加することにしました。

活動としては、受講希望の学校を訪問、「遠くて近い国アルゼンチン」というタイトルで、アルゼンチン駐在経験者の生の声で、下記内容をアルゼンチンの魅力を楽しみエピソードを交え紹介します。

1. アルゼンチンの国の概要（自然、政治、経済、社会）
2. アルゼンチンのスポーツ・文化・自然・食物
サッカー、ラグビー、アルゼンチンタンゴ、イグアスの滝、氷河、牛肉、ワイン
3. 日本との経済関係
日本との貿易、日本の企業進出（発電プロジェクト、自動車工場等）
4. 日系人の活躍、日本とアルゼンチン両国関係トピックス

本件に関する全体像と当協会のプログラムの内容は東京都ホームページの、東京都国際交流コンシェルジュのHP国際交流プログラム一覧(17)に(一社)日本アルゼンチン協会「遠くて近い国アルゼンチン」として掲載されていますので、御覧ください。

<http://www.tiec-edu.metro.tokyo.jp/program/>

早くも大田区立萩中小学校より申し込みがありました。9月6日(金)13:40から15:10で2回に分けて6年生60人に講義が決定しています。

更なる受講希望発掘のため会員の皆様からのご紹介をお待ちしております。宜しくお願い致します。

(わたなべ ちあき：当協会常務理事)



総会・理事会報告

嶋 利治

5月28日(火)アルゼンチン大使館小講堂に於いて下記のごとく総会・理事会を開催しました。

- ・15:30～ 第1回理事会
- ・16:30～ 第7回定時総会
- ・17:30～ 第2回理事会

平成30年度活動報告並びに決算報告、平成31年度活動計画並びに予算案が審議され承認されました。

また理事・監事の改選と役付き理事並びに業務執行理事の選定と承認で執行部新体制がスタートしました。

理事：

荒尾 保一、飯塚 久夫、遠藤 信博、勝田 富雄、加藤 勝巳、川上 貴、イレーネ賀集、木島 輝夫、木村 敏夫、楠 宗久、斉木 茂治、宍戸 和郎、嶋 利治、高安 宏治、寺本 安久、永井 慎也、藤田 悟郎、保坂 庄司、松下 洋、松本 良彦、的場 博子、吉村 佳人、渡部 千秋、*阿部 和子、*伊藤 誠、*櫻井 淳、*鈴木 正弘、*袖岡 嘉憲、*安田 衣里、以上理事29名(*は新任)

監事：

西脇 修、横山 稔、以上監事2名

会長・代表理事	遠藤 信博
副会長・代表理事	木島 輝夫
理事長・代表理事	永井 慎也
常務理事・業務執行理事	川上 貴
同	木村 敏夫
同	嶋 利治
同	寺本 安久
同	保坂 庄司
同	渡部 千秋
業務執行理事	阿部 和子
同	伊藤 誠
同	勝田 富雄
同	楠 宗久
同	藤田 悟郎
同	松本 良彦
相談役	友國 八郎 (重任)
顧問	白鹿 敦己 (重任)
同	津島 勝二 (重任)
同	鶴岡 忠成 (重任)
同	星野 美智子 (重任)

(しま としはる：当協会常務理事)

5月28日(火)懇親会でのショット：詳細は会報電子版でご報告します。



亜国出身の大城バネサさんの歌唱と
宮川泰夫元NHKアナウンサー



野本勇作氏と田中重男氏からは美味しい野菜と銘酒“徳正宗”
をご寄贈頂きました。

本年はアルゼンチン赤海老、パタゴニア地域産牛肉をメニューに加え更にアルゼンチン色の醸し出された日亜協会懇親会となりました。

会員の皆様からの自由なご意見、情報、原稿投稿をお待ちしています

投稿先：E-mail: nippon@argentina.jp

Fax: 03-6809-3682 電話 03-6809-3681 担当：阿部

* 住所変更の連絡もこちらへ宜しくお願い致します。

令和元年度 年会費納入のお願い

本年度（令和元年4月1日～令和2年3月31日）の年会費のお支払いをまだ済まされていない方は、早めのお手続きをお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第72号
2019年7月16日発行

発行人 永井慎也（当協会理事長）
編集長 木村敏夫（当協会常務理事）
編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会

〒107-0052

東京都港区赤坂1丁目1番17号

細川ビル704号室

電話：03-6809-3681

FAX：03-6809-3682

E-mail：nippon@argentina.jp

URL：http://www.argentina.jp/

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート



編集長より



興味深い話題のご執筆、皆様有難うございます。

パタゴニア地域産牛肉を懇親会でご賞味頂きました。

「美味しかった、アルゼンチンでの生活を思い出した」と嬉しいお言葉。今後の流通ルート開拓待ちですが、手軽に手に入る日を心待ちにしています。

アップデート情報出て来ましたらご連絡致します。